

授業改善推進プラン < 音楽科 >

(音楽) 科における令和4年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・生徒リーダーによる練習の進行が定着してきている。美しいハーモニーを作る上でも正しく音程をとることが重要なので、キーボードを活用した、より具体的な部分練習ができるような指導をする。
- ・リコーダーの課題曲を2パートによるアンサンブルを取り入れて、和声感を育てることができた。教材の幅を広げて、レパートリーを増やす工夫をする。

(音楽) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○合唱に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・正確なハーモニーや発声指導を心がけ、楽曲の雰囲気豊かな表現ができるようにする。男子生徒は元気よく歌唱活動に取り組むが、周りの音を聴いて合わせることや、音を聴くという行為そのものに集中力が足りないので音に引きつける指導が必要である。電子黒板の設置により、練習の振り返りに有効活用させたい。 <p>○器楽に関して</p> <p>演奏の能力にかなり個人差があるので、練習時間の中で個別指導をどこまで組み込んでいけるかが課題である。</p> <p>○鑑賞に関して</p> <p>視聴覚教材が圧倒的に不足している。良質な教材を増やしていく。</p>
観点別結果の分析	<p>○「関心・意欲・態度」については個人差があるが、全体的に意欲は高い。</p> <p>○「音楽的感受と表現の工夫」については、歌唱・器楽ともに演奏表現の乏しい生徒が多い。一方鑑賞レポートなどは自分の感じたことを文章によって詳細に表現できる生徒が多い。</p> <p>○「表現の技能」については、正しく音程をとることができる生徒が多いが、声量に乏しい生徒も多い。</p> <p>○「鑑賞の能力」については、静かに集中して聴くことができない生徒がクラスに数名いるが、ワークシートへの記入などの活動には全体的に熱心に取り組むことができる。合唱練習曲の聴き取りテストなども積極的である。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・美しい響きを目標においた発声指導を行う。
- ・表現力をつけるための指導の工夫を続ける。
- ・ICT機器を活用した、演奏の振り返りを行う。
- ・できるだけ全員が演奏できるような器楽教材の工夫を図る。

(音楽) 科の授業改善案

- ・合唱に関しては、昨年よりさらに豊かなハーモニーの完成度を上げるためにも、部分練習の仕方を指導していく。
- ・器楽に関しては、できるだけ個別の指導を練習の時間に取り入れる。
- ・鑑賞に関しては、題材に合わせ、生徒の関心や興味に応じた鑑賞教材を整備していく。